＜アイディア１＞

小学校第３学年

「いろいろな音のひびきをかんじとろう」

教材曲「おかしのすきなまほう使い（秋葉てる代作詞/大熊崇子作曲）」

全ての音楽の学習の支えとなる資質・能力である〔共通事項〕を要として，「Ａ表現（２）**器楽**」と「Ａ表現（３）**音楽づくり**」とを関連付けた題材。「Ａ表現（１）**歌唱**」も関連する。

★本題材の学習において，児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素

音　色　・　強　弱

小学校音楽科
中学校音楽科　　共通
高等学校芸術科（音楽）

音楽科の授業において，
「**身に付けた資質・能力を活用・発揮する**」とは
具体的にどういうことなのか，
最初に説明します。

音楽科（芸術科音楽）という教科・科目について

●音楽科における資質・能力の活用・発揮とは･･･

小学校及び中学校の「音楽科」，高等学校の「芸術科音楽」において，

「児童や生徒が身に付けた資質・能力を活用・発揮する」

ということが，具体的にどういうことなのかについて，小学校，中学校，高等学校に共通した音楽科という教科・科目の特質を踏まえた上でまずは説明します。

音楽の授業を構想したり実践したりする上で，どうしても理解しておいてほしいことですので，どの校種の先生もぜひご覧ください。

音楽科（芸術科音楽）という教科・科目について

●音楽科における資質・能力の活用・発揮とは･･･

小学校から高等学校まで，教科・科目名の変わらない「音楽」ですが，そこでやる内容も

「歌唱」
「器楽」
「創作（音楽づくり）」
「鑑賞」

の４つの分野で変わりません。

器楽
鑑賞
歌唱
創作

音楽科（芸術科音楽）という教科・科目について

●音楽科における資質・能力の活用・発揮とは･･･

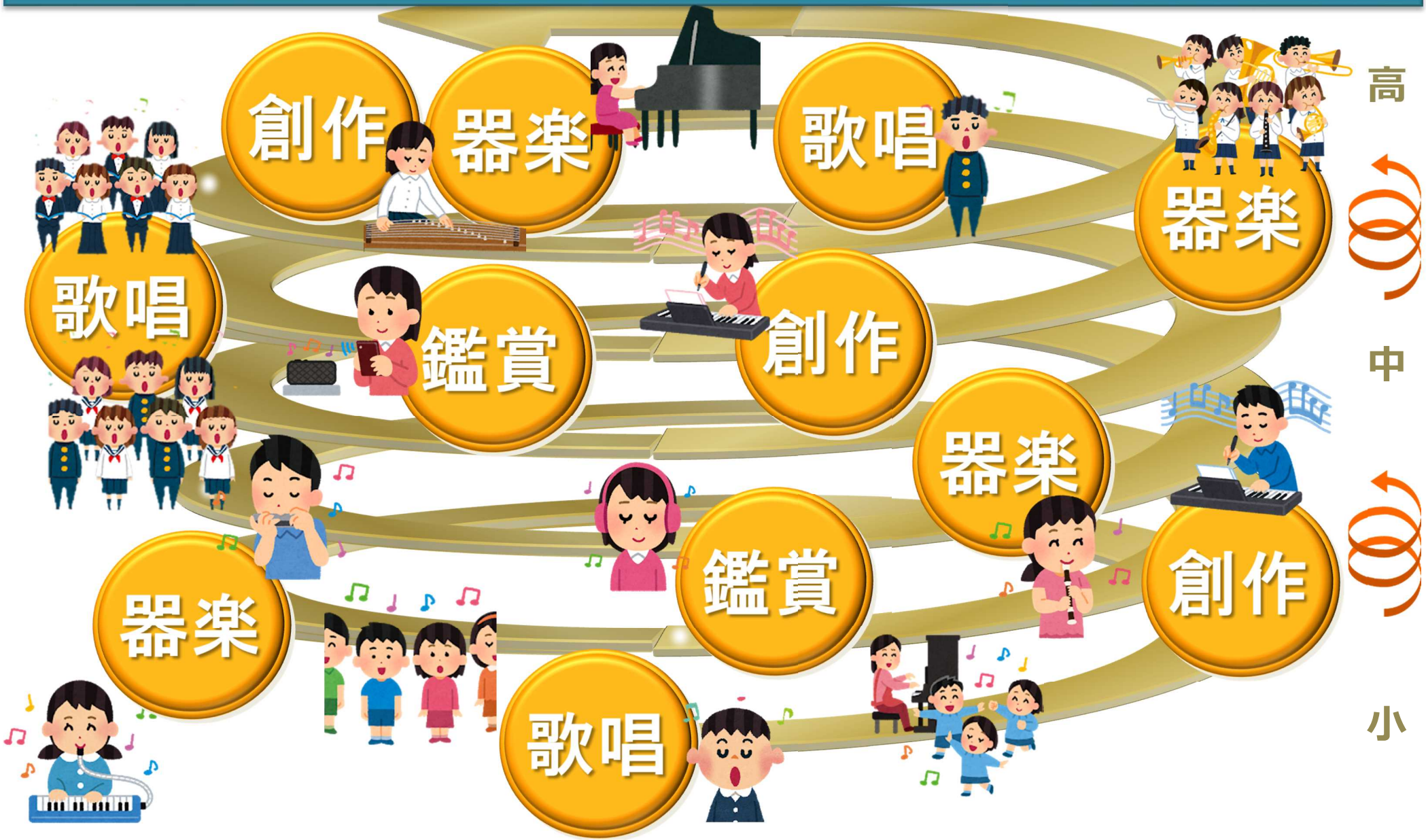
「歌唱」「器楽」「創作（音楽づくり）」「鑑賞」

上記４つの幅広い音楽活動を通して，
生活や社会の中の（多様な）音や音楽，音楽文化と幅広く（豊かに・深く）関わる資質・能力を，発達段階に応じて螺旋的に質を高めていくことを目指す教科が「音楽」です。

音楽では「単元」でなく「題材」を用いますが，その理由や意味もここにあります。

音楽科・・・

資質・能力の螺旋的な質の高まりを目指す教科



音楽科（芸術科音楽）という教科・科目について

●音楽科における資質・能力の活用・発揮とは･･･

このことによって，最終的に目指すのは，

生涯にわたり音楽を愛好する心情を育む

ことであり，

音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う

ことです。

音楽科・・・
資質・能力の螺旋的な
質の高まりを目指す教科
生活や社会の中の音や音楽，音楽文化と
豊かに関わる資質・能力
・・・生涯にわたり音楽を愛好する心情
歌唱
器楽
鑑賞
創作
高
中
小

音楽科（芸術科音楽）という教科・科目について

●音楽科における資質・能力の活用・発揮とは･･･

資質・能力の質を螺旋的に高める際，

表現及び鑑賞の全てに共通して必要となる，
言い換えれば
全ての音楽の学習の支えとなる資質・能力が

〔共通事項〕

です。

音楽科・・・
資質・能力の螺旋的な
質の高まりを目指す教科
生活や社会の中の音や音楽，音楽文化と
豊かに関わる資質・能力
・・・生涯にわたり音楽を愛好する心情
〔共通事項〕ア，イ
表現及び鑑賞に共通して必要となる
（全ての学習の支えとなる）資質・能力
器楽
歌唱
鑑賞
創作
高
中
小

〔共通事項〕

表現及び鑑賞に共通して必要となる（全ての学習の支えとなる）資質・能力

（1）「Ａ表現（歌唱，器楽，創作・音楽づくり）」及び「Ｂ鑑賞」の指導を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し（聴き取り），それらの働きが生み出す特質や雰囲気（よさや面白さ，美しさ）を感受し（感じ取り）ながら，知覚した（聴き取った）ことと感受した（感じ取った）こととの関わりについて考えること。

イ　音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号など（音符や休符）について，音楽における働きと関わらせて理解すること。

音楽科（芸術科音楽）という教科・科目について

●音楽科における資質・能力の活用・発揮とは･･･

表現及び鑑賞の全てに共通して必要となる，（全ての音楽の学習の支えとなる資質・能力）である〔共通事項〕ですが，「思考力，判断力，表現力等」に関する資質・能力のアと，「知識」に関する資質・能力のイがあります。
特にアが重要で，聴き取ったことと感じ取ったことを関わらせていくことによって，知識や技能が更新されていきます。
音や音楽との出会いの段階でこの資質・能力を活用・発揮させることが大切です。また，習得した「実感しながら理解する知識」や「創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能」を生きて働くものとして身に付けることが〔共通事項〕のねらいでもあります。

●音楽科における資質・能力の活用・発揮とは･･･

〔共通事項〕にある「音楽を形づくっている要素」ですが，上記が主なものです。これらの中から，その題材の中で扱う「本題材の学習において，児童生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素」を絞り込むことが重要です。１題材で１～３つ程度に絞り込んで題材構成等を構想していきます。

●音楽科における資質・能力の活用・発揮とは･･･

以上のように「音楽」は「身に付けた資質・能力を活用・発揮する」ことの繰り返しを大前提とした教科・科目です。
〔共通事項〕を支えとした授業をすることで，生涯にわたり音楽を愛好する心情を育んでください。

中学校・高等学校の音楽科教員はこのことを常に意識し，小・中・高の系統性を踏まえた授業づくりや授業改善をしていく必要があります。

小学校の教員は，その題材で身に付けさせたい資質・能力が何であるかを学習指導要領で確認した上で，まずは「楽しい音楽活動」を実践し，それを〔共通事項〕を支えとしながら「音楽の学習」へと誘ってあげてください。

＜アイディア１＞

小学校第３学年「**いろいろな音のひびきをかんじとろう**」

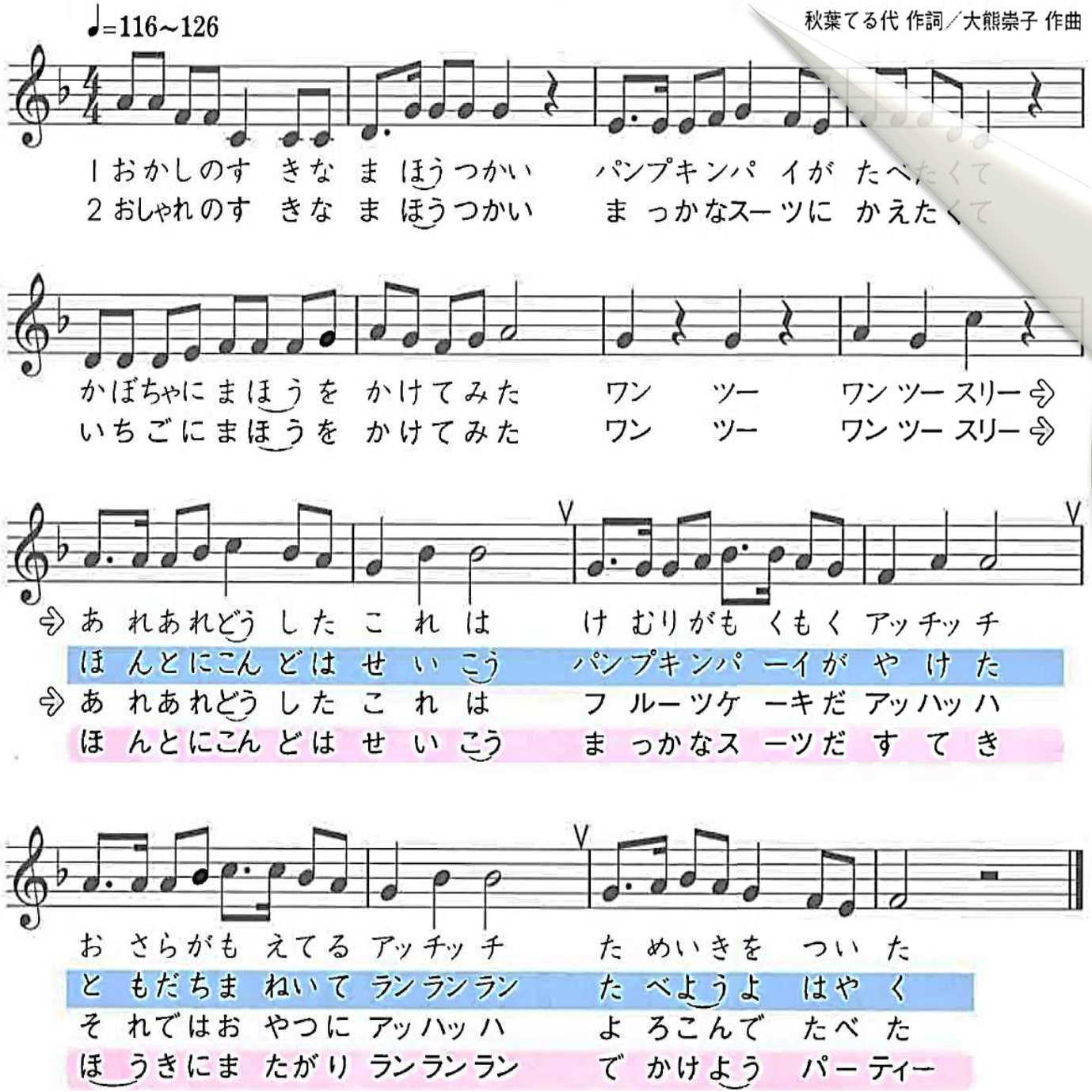
「おかしのすきなまほう使い（秋葉てる代作詞/大熊崇子作曲）」を教材曲とし，
〔共通事項〕･･･**全ての音楽の学習の支えとなる資質・能力**･･･**を要**として，
「Ａ表現（２）**器楽**」と「Ａ表現（３）**音楽づくり**」とを関連付けた題材。

★本題材の学習において，児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素･･･**音色・強弱**

「器楽」に関する知識及び技能を活用・発揮しながら，既習の楽器の中から「まほうの音楽」にふさわしい楽器を選択し，さらにその楽器が奏法等によって様々な音色が出ることを音で試して実感しながら気付き，それらの組合せ（順番や重なりなど）や強弱をグループにより音で試しながら試行錯誤することで，思いや意図をもって表現することについて深く学ぶとともに，音楽を愛好する心情を育成するためのアイディア
第１・２学年で打楽器の奏法や即興的に音を選んだりつないだりして表現する技能等を身に付けた後の第３学年を想定

おかしのすきな まほう使い

秋葉てる代 作詞／大熊崇子 作曲



このアイディアでは，**「おかしのすきなまほう使い」**という楽曲を教材とします。まずは，ゆかいでまぬけなまほう使いの様子を**歌詞や曲想から思い浮かべて歌唱表現**します。**強弱の工夫**についても考えさせながら歌います。

歌詞が表す場面を思い浮かべて歌う

⬇＜思いや意図をもって表現＞

まほうの音楽の部品づくり

思いに合った音色の探求

⬇＜音による試行錯誤の繰り返し＞
＜知識及び技能の活用・発揮→更新＞

その後，途中の魔法をかける場面で演奏するための**「まほうの音楽」を創作**するために，**最初は個人**でまほうの音楽の部品を，楽器の奏法や音色についてのこれまでの知識・技能を活用・発揮しながら，さらに様々な演奏の仕方やバチの選択などによる音色の違いを習得しながら知識・技能を更新して創作します。その際，**音で試しながら試行錯誤を繰り返していくことが重要**となります。教師がはじめから様々な奏法を教えるのではなく，児童が十分な試行錯誤の後に，気付かなかったことなどについて助言します。

わたしは

（がっき）

を

（どのように）

ならしてまほうをつくりました！なぜなら

（イメージ）

感じにしたいからです。

思いや意図をもって表現するため，穴埋めの文章を用意し，ある程度の**縛りをつくる**ことも考えられます。先にイメージの部分を書き込み，その**イメージに合った楽器の選択やその奏法を試行錯誤して音で試す**ことで，より思いや意図に合った表現を創作することにつながります。例えば，きらきらした感じにしたい場合，トライアングルをトリルで鳴らして，あるいは，ウィンドチャイムを指でなでるようにならして，等という奏法になります。びっくりした感じにしたい場合，大太鼓を思いっきり１発，あるいは，シンバルを１発等という方法もあります。また，このような**音楽づくりの活動を入れる**ことによって，逆に，**より歌にもイメージをもつことができる**と考えられます。

歌詞が表す場面を思い浮かべて歌う

⇩＜思いや意図をもって表現＞

まほうの音楽の部品づくり

思いに合った音色の探求

⇩＜音による試行錯誤の繰り返し＞
＜知識及び技能の活用・発揮→更新＞

まほうの音楽をつくる

グループで音による試行錯誤

⇩＜強弱，組合せ，重ね方の試行錯誤＞

まほうの音楽を入れて音楽表現を楽しむ

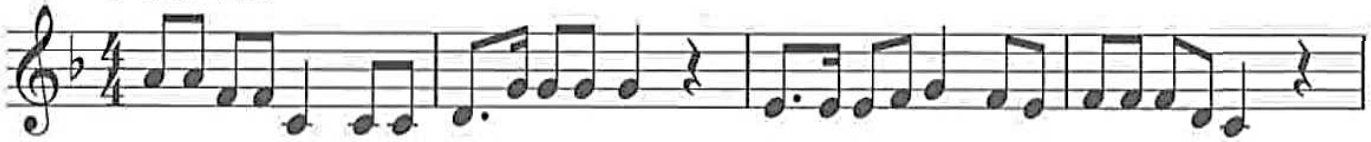
＜まほうの音楽に近付ける･･･合っているかの視点で聴き合う（根拠も）＞

その後，**グループによってそれらの部品を組み合わせ**たり，**順番**を考えたり，あるいは**重ねたり**という**音による試行錯誤をして交流**し，まほうの音楽を構成していきます。どのようなまほうの音楽をつくりたいのか**思いや意図をもって音で試すことを繰り返し**，その中で**強弱を変化させるとひびきが変わること等にも気付くことができます**。できあがったまほうの音楽をグループごとに発表し，まほうの音楽としてどうかという視点で聴き合います。この際には，**なぜそう思ったのかという根拠も一緒に発表**します。
最終的にクラスで選んだ１つのまほうの音楽を歌に入れての音楽表現を楽しみます。

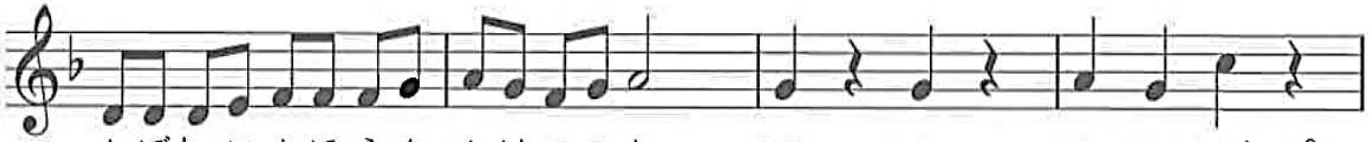
おかしのすきな まほう使い

♩=116～126

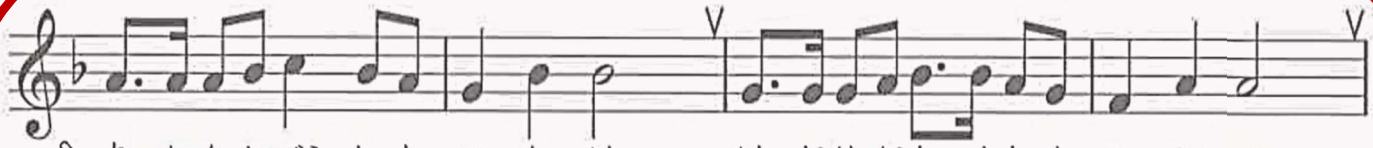
秋葉てる代 作詞／大熊崇子 作曲



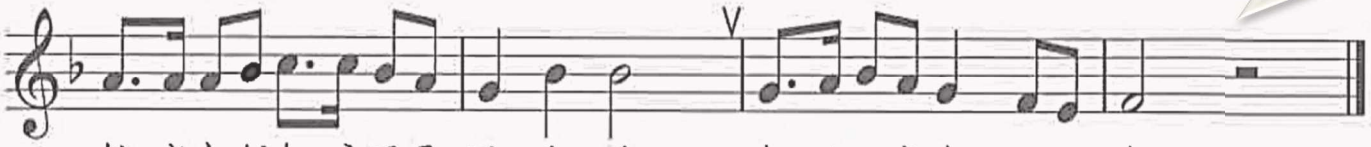
1 おかしのす きな ま ほうつかい　パンプキンパ イが たべたくて
2 おしゃれのす きな ま ほうつかい　ま っかなスーツに かえたくて



かぼちゃにまほうを かけてみた　ワン ツー　ワン ツー スリー
いちごにまほうを かけてみた　ワン ツー　ワン ツー スリー



あ れあれどう した こ れ は　け むりがも くもく アッチッ チ
ほ んとにこん どは せ い こう　パンプキンパ ーイが や け た
あ れあれどう した こ れ は　フ ルーツケ ーキだ アッハッ ハ
ほ んとにこん どは せ い こう　ま っかなス ーツだ す て き



お さらがも えてる アッチッ チ　た めいきを つい た
と もだちま ねいて ランランラン　た べようよ はや く
そ れではお やつに アッハッ ハ　よ ろこんで たべ た
ほ うきにま たがり ランランラン　で かけよう パー ティー

なお，歌詞の内容が，**まほうが失敗**したものと**成功**したものの組合せで構成されていることから，次の段階としては**失敗・成功それぞれのまほうの音楽を創意工夫して創作**することも考えられます。

歌詞が表す場面を思い浮かべて歌う

⇩＜思いや意図をもって表現＞

まほうの音楽の部品づくり

思いに合った音色の探求

⇩＜音による試行錯誤の繰り返し＞
＜知識及び技能の活用・発揮→更新＞

まほうの音楽をつくる

グループで音による試行錯誤

⇩＜強弱，組合せ，重ね方の試行錯誤＞

まほうの音楽を入れて音楽表現を楽しむ

⇩＜まほうの音楽に近付ける･･･合っているかの視点で聴き合う（根拠も）＞

音楽を愛好する心情の育成

個人やグループにより**音で試しながら試行錯誤**することで，**思いや意図をもって表現することについて深く学ぶ**ことができます。またこのことで，器楽や音楽づくりの知識・技能を繰り返し活用・発揮しながら，創意工夫を生かした音楽表現を楽しむことができ，音楽を愛好する心情を養うことにつながると考えられます。

アイディアを体験した先生の感想

感じ取ったことを話し合うことは多くても，その根拠となる音楽を形づくっている要素に気付かせなければ，学びにならないと思った。

音楽づくりでは，子どもの発想の豊かさに触れながらも，〔共通事項〕をしっかりと取り上げた授業ができるよう授業を組み立てたい。

授業づくりでは，聴き取ったことと感じ取ったこととを関わらせた授業をするように心がけたい。

知覚と感受を整理することで，子どもがより音楽を楽しむことができるのではと思った。

音楽づくりの中で子どもたちが知覚と感受を往還させながら一つのストーリーのある音のまとまりをつくれるような姿を目指すことが大切になると思った。

「どうして？」と問い掛けてあげることで，知覚と感受を関わらせることができることを知り，今後活用していきたいと思った。

奏法によって楽器からいろんな音が出るということを子どもに伝えた上で音楽づくりをしていきたいと思った。